

第4学年国語科学習指導案

指導者 中屋 優理

1 日時 令和5年11月17日(金) 2校時(9:50~10:35)

2 学年・組 第4学年C組(25名)

3 単元名 気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」

4 単元の目標

- (1) 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。〔知識及び技能〕(1)ク
 (2) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ
 (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、考えたことを伝え合う活動

【音読げきをしてごんや兵十の気持ちを想ぞうし、伝え合おう】

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク)	① 「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	① 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、進んで場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

7 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は、4月教材「白いぼうし」では、場面と場面のつながりを見付けて考えることで、登場人物の気持ちを捉える学習を行った。6月教材「一つの花」では、場面を比べて読むことで、登場人物の気持ちの変化を想像する学習を行った。これら二つの文学的な文章の学習を通して、場面の移り変わりを意識して、登場人物の気持ちの変化を想像することができるようになってきた。しかし、複数の場面を結び付けたり、他の登場人物の気持ちと重ね合わせて考えたりすることが難しく、学習している場面の叙述だけで登場人物の気持ちを考えてしまう児童もいる。

授業では、多くの児童が登場人物の気持ちやその変化について進んで考えをもつことができる。国語科学習アンケートでは、「国語科の学習で、自分の感想や考えをもつことができますか。」という質問について、96%の児童が肯定的な回答をしている。しかし、既習事項を踏まえて考えたり、考えた理由を明確にして伝えたりすることが難しい児童もいる。

音読については、意欲的に取り組む児童が多く見られる。「白いぼうし」では、場面の様子や登場人物の気持ちを音読で表現することで、理解を深めることができた。最初は自信がなく、音読することに抵抗感のある児童が多かったが、声に出して読むことで、登場人物の気持ちを想像しやすくなることに気付き、自分なりの表現で取り組む児童が増えてきた。

(2) 教材観

本単元は、主な指導事項として、「C読むこと」(1)エ「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」を設定している。これは、第5学年及び第6学年では、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に発展していく内容となっている。

本教材は六つの場面で構成されており、一場面から五場面の多くはごんの視点で描かれている。児童はごんに寄り添いながら読み進めることができ、ごんの気持ちやその変化を捉えやすい。しかし、六場面では兵十の視点からの描写が多くなる。そこでまず、大きく変化する兵十の気持ちを想像することが、ごんの気持ちをより具体的に想像することにつながる。また、ごんの気持ちが直接語られていないため、一場面から五場面までの気持ちの変化と結び付けて想像することが大切になってくる。

本文には、随所に登場人物の独話や心内語、優れた情景描写、擬声語などが盛り込まれている。児童は、様々な叙述を手掛かりに、登場人物の気持ちやその変化を想像することができる。

これらのことから、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像していくことを指導するのに適した教材であると考えられる。

(3) 指導観

本教材には、現代に馴染みのない道具や生活の様子が描写されており、児童が当時の状況を想像することは難しい。そのため、事前にタブレット端末を活用して、物語の中に登場する昔の道具や生活の様子について調べる機会を設ける。そうすることで、場面の様子をつかんで物語を読み進めることができると考える。

言語活動として音読劇を設定し、叙述に基づいて音読や動作化を行う。音読や動作化は、読み手が登場人物に同化することを促す。音読や動作化に取り組む中で、登場人物の声(大きさや強弱など)や表情、動きを想像することにより、ごんや兵十の心情に迫ることができると考える。活動を楽しんで終わりということにならないよう、登場人物の気持ちやその変化を想像するために音読劇をするという目的を明確にする。また、グループで話し合いながら活動に取り組むことで、自分だけでは気付かなかった見方に触れ、登場人物の気持ちについて考えを深めることができるようにする。

一次では、児童が学習計画を立てたり、初発の感想を基に学習課題を設定したりすることで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。学習課題は、初発の感想を書いた際に、児童が見いだした疑問を基に設定する。児童一人一人の疑問を班や全体交流で精査し、単元のためを達成するために学級で深めていきたいものを学習課題とする。

二次では、音読劇を通して、一次で設定した学習課題を解決していく。登場人物の気持ちの変化を想像するためには、行動や様子などに関わる複数の叙述に着目し、それらを結び付けて読む必要がある。したがって、児童が場面の移り変わりを意識しながら読むことができるように、ごんや兵十の気持ちの変化が分かる掲示物を作成する。また、音読劇用に学習プリントを用意する。行間を広くとって本文を印刷しておき、音読劇をする過程で想像した登場人物の気持ちを、児童が書き込めるようにする。その際には、複数の場面の叙述に基づいて音読や動作化をすることができるように指導していきたい。

三次では、音読劇発表会を行う。これまでの学習を生かして音読劇をすることにより、物語の世界をより豊かに想像することにつなげたい。そのために、まずは、二次の学習を振り返る時間を設け、登場人物の気持ちやその変化を捉えた上で音読劇に取り組むことができるようにする。練習する際には、必要に応じてタブレット端末を活用する。音読や動作化の様子を互いに撮影し合い、二次で学習したことが伝わる表現になっているかを確認することができるようにする。発表会で自分の表現を伝えたり、友達の表現のよいところを見付けたりすることを通して、物語を読む楽しさを味わうことができると考える。発表会後は、音読劇を通して登場人物の気持ちやその変化を想像する学習の仕方について振り返る。児童が自分たちの学びを評価することで、達成感を得ることができるようになりたい。

8 単元の指導計画（14時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ○物語に登場する昔の道具や生活の様子について調べる。 ○「ごんぎつね」以外の新美南吉作品を読む。 ○児童文芸雑誌「赤い鳥」を創刊した鈴木三重吉（本校卒業生）について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、各自で調べることができるようにする。 ・ブックトークで新美南吉の作品を紹介し、興味をもつことができるようにする。 ・「ごんぎつね」は、新美南吉の草稿に鈴木三重吉が手を入れて「赤い鳥」に掲載されたものであり、教科書で長年扱われてきたことを伝える。 ・新美南吉作品や「赤い鳥」掲載作品のコーナーを設置し、児童がいつでも読むことができるようにする。 	
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ○全文を読み、初発の感想を書く。 ○単元のめあてや、三次で音読劇発表会をすることを知り、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一番心に残ったことと疑問に思ったことを書くように指導し、学習課題の設定につなげる。 ・既習事項を振り返ることで、本単元の学習に生かす意欲をもつことができるようにする。 	
	2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の中心となる出来事をつかむ。 ○各自の疑問をもとに学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各場面の内容の大体をつかむために、ごんの行動に着目するよう指導する。 ・単元のめあてを確認し、それを達成するために学級で深めたい疑問を出し合うことができるようにする。 	

二	4・5	○ごんの性格を捉え、ごんの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・六場面に向けて、兵十や村人がごんのことをどう思っているか考えるようにする。 ・場面の移り変わりと結び付けて考えるために、ごんや兵十の気持ちの変化が分かる掲示物を作成する。 	<p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思①〕【発言・記述】</p> <p>◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。〔主①〕【観察・発言・記述】</p>
	6～9	○ごんの気持ちの変化を想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や動作化をする過程で登場人物の気持ちを具体的に想像することができるようにする。 	
	10本時	○ごんを撃つ前と後の兵十の気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の様子や行動、情景を表す言葉に着目し、叙述に基づいて考えることができるように指導する。 	
	11	○兵十に撃たれたごんの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・努力を要する児童には、掲示物やこれまでの学習プリントを見たり、友達の考えを聞いたりすることで、気持ちを想像できるようにする。 	
三	12	<p>○グループで、音読劇をする場面を選ぶ。</p> <p>○タブレット端末で撮影しながら、音読劇の練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二次の学習を振り返る時間を設け、音読する場面を決めるようにする。 ・登場人物の気持ちが伝わる表現方法の工夫を考えるように助言する。 	<p>◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思①〕【発言・記述】</p> <p>◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。〔知①〕【音読】</p>
	13	<p>○音読劇発表会をする。</p> <p>○音読劇を通した学習の仕方について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や動作化の仕方に理由を付けて、発表を始めるよう指導する。 ・友達の発表のよいところを見付け、伝え合うようにする。 ・音読劇を通した学習のよさを互いに認め合うことで、達成感を得られるようにする。 	

四	14	○「ごんぎつね」を学習した感想を書き、単元の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を振り返る時間を設け、学習後の変化を捉えることができるようにする。 ・本単元で活用した読み方を、今後の読みに生かしていくように伝える。 	◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。〔思②〕【発言・記述】
---	----	--------------------------------	--	---

9 単元のゴールの姿

- ・私は、音読げきを通して学習することで、ごんの気持ちがよく分かりました。ごんは、初めはいたずらばかりする悪いきつねでした。でも、兵十に悪いことをしたと反省してからは、兵十のためにがんばってつぐないを続けようという気持ちになったことが分かりました。
- ・ぼくは、音読げきを通して学習することで、ごんの気持ちがよく分かりました。四場面では、兵十と加助の会話を聞きながら、ごんは「自分がくりを置いているということを知りたい。」と思っていました。五場面でも、ずっと自分のことを知ってほしいと思っていたのに、「神様にお礼を言うがいいよ。」と言われて、さらにながかりしたことが分かりました。
- ・私は、音読げきを通して学習することで、兵十の気持ちが分かるようになりました。初めはごんをうつななてひどいと思っていたけど、兵十にとって、ごんはただ、いたずらをするきつねだったことが分かりました。だから、ごんがうちの中へ入ったのを見たときは、ぜっとうやるという気持ちで音読しました。
- ・六場面で「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」を音読したら、ぼくも悲しくなりました。兵十は、毎日くりを持って来ていたのはごんだったということに初めて気づき、大変なことをしてしまったとすごく後悔したんだと分かりました。
- ・六場面の音読げきで、兵十役の○○くんにうたれたとき、ごんに悲しい気持ちがあったことが分かりました。つぐないのために、ずっと兵十にくりや松たけを持って行ったのに、うたれるまで自分だと気づいてもらえなかったからです。

10 本時の学習（第二次10時）

(1) 目標

兵十の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。
〔思①〕

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 本時のめあてを確かめる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> めあて 六場面の音読げきをして、ごんをうつ前と後の兵十の気持ちを想おうしよう。 </div>		
2 六場面の範読を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・兵十の気持ちが分かる叙述を見付けながら聞くように促す。 	
3 班で音読劇をして、ごんを撃つ前と後の兵十の気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の場面や叙述に基づいて、音読や動作化を確認する。 ・これまでに学習したことを掲示しておき、場面の移り変わりを意識することができるようにする。 ・音読劇をする過程で、想像した兵十の気持ちを書き込むことができる学習プリントを用意する。 <p>※努力を要する児童には、掲示物やこれまでの学習プリントを見たり、友達の考えを聞いたりして音読や動作化に取り組むよう助言する。</p>	◎「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。〔思①〕【発言・記述】
4 ごんを撃つ前と後の兵十の気持ちの変化について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や動作化をする過程で考えた兵十の気持ちを発表するように指示する。 ・気持ちが変わった理由を明確にする。 ・話し合った後に、一つの班の音読劇を紹介し、学習したことを再確認することができるようにする。 	
5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の終わりに、ごん役をした児童にどんな気持ちになったか問い、次時の学習につなげる。 	
兵十は、ごんをぜっ対にうつてやろうと思っていました。でも、ごんがくりを持ってきていたことに気づいて、大変なことをしてしまったという気持ちになりました。		

ごんぎつね

新美 南吉

めあて

◎六場面の音読げきをして、ごんをうつ前と後の兵十の気持ちを想ぞうしよう。

ごんをうつ前

- ・ひどいいたずらをされた。
- ・村のみんなが困っている。
- ・ごんのせいで
- ひどい目にあった。
- ・悪いことばかりするきつねだ。

(児童の発言を書いていく。)



- ・にくい。
- ・ぜっ対うってやる。
- ・ゆるさない。
- ・うらんている。

ごんをうった後

- ・くりをとどけに来てくれたのは、ごんだった。
- ・ごんだとは思わなかった。
- ・意外だった。びっくりした。
- ・いつもくりや松たけを持ってきてくれた。

(児童の発言を書いていく。)

- ・うつんじやなかった。
- ・分かっていなくてごめんね。
- ・もっと早く、ごんだと気づけばよかった。
- ・死なないでくれ。
- ・くりを持ってきてくれてありがとう。

まとめ

第4学年 国語科と平和教育のつながり

国語科
(文学的な文章)

場面の様子をくらべて読み、感想を書こう
「一つの花」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・一次で、「一つの花」を読んで見いだした疑問から学習課題を設定する。その際に、班や学級全体で話し合いながら疑問を伝え合い精査していく。
- ・子供たちが設定した学習課題について迫る際に、班で話し合ったり、全体で交流したりする。自分の考えを友達と共有することで、一人一人の感じ方や考え方に違いがあることに気付く。

気持ちの変化を読み、考えたことを話し合おう
「ごんぎつね」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・登場人物の気持ちの変化を想像するために、班で音読劇に取り組む。音読や動作化を通して、自分が想像した登場人物の気持ちを班の友達に伝える。
- ・班で話し合いながら音読劇に取り組むことで、いろいろな見方に触れ、登場人物の気持ちについて考えを深める。

登場人物の変化を中心に読み、物語をしよう
かいしょう
「プラタナスの木」

互いの立場や考えを尊重し、自分の言葉で思いを伝える

- ・作品の魅力を考え、班で話し合う。互いに感じたことや考えたことを理解し、自分の考えを深める。また、他者の感じ方や考え方のよさに気付く。
- ・物語の魅力を紹介し合う活動に取り組むことで、同じ物語でもそれぞれに多様な捉え方があることを知る。

他教科等

本川に残されたものにこめられた願いを受けつごう

「受け継ごう、伝えよう本川音頭」(総合的な学習の時間)

- ・本川音頭を地域の方(本川音頭保存会)に教わる。
- ・保存会の方の思いを聞き、本川音頭に込められた願いを考える。

「広島ひばくと伝えたいこと(平和ノート)」(社会科、道徳、国語科)

- ・原子爆弾投下前後の様子を比較したり、原子爆弾の影響を調べたりすることを通して、原子爆弾による被害について知る。
- ・戦争が激しくなり、大好きなピアノを弾くことができなくなった明子さんの気持ちを考え、自分の生活とつなげて思ったことなどを話し合う。
- ・これまで学習してきたことから、自分たちが残したいものや伝えたいことについて話し合う。

「灯ろうづくり」(総合的な学習の時間)

- ・平和な世の中にするために自分ができていることを考えて灯ろうに書き、考えたことを表現する。

「きょう土の伝統や文化と先人たち」(社会科)

- ・原爆ドームや原爆の子の像などについて調べ、人々の願いや、それをこれからのように受け継ぐのか考える。

「本川のひばくについて調べよう」(総合的な学習の時間)

- ・本川地区の被爆建物や被爆樹木、慰霊碑などについて調べ、被爆の実相を知る。
- ・調べて分かったことをまとめることを通して、平和を願う地域の人々の思いを考える。

「上手な主張の仕方」(特別活動)

- ・自分の主張を一方向的に言うのではなく、相手の立場や状況を考えて伝えることの大切さに気付く。